

令和6年度 和歌山県立医科大学附属病院 医師等労働時間短縮計画

計画期間

令和6年4月～令和9年3月末

対象医師

第二内科医師（36名（連携B：9名））
 第三内科医師（17名（B：5名／連携B：5名））
 第四内科医師（26名（B：12名／連携B：3名））
 小児科医師（23名（B：7名／連携B：5名））
 脳神経外科医師（17名（B：5名／連携B：3名））
 第一外科医師（18名（B：8名／連携B：1名））
 第二外科医師（20名（B：9名／連携B：4名））
 整形外科医師（27名（B：1名／連携B：7名））
 泌尿器科医師（15名（B：7名））
 放射線科医師（19名（連携B：2名））
 産科・婦人科医師（13名（B：9名／連携B：1名））
 麻酔科医師（30名（B：7名／連携B：3名））
 救急集中治療部医師（23名（B：2名／連携B：4名））
 血液内科医師（14名（B：6名／連携B：3名））
 腎臓内科医師（15名（B：2名／連携B：5名））

1. 労働時間と組織管理（共通記載事項）

（1）労働時間数

第二内科医師（36名（連携B：9名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和4年度実績	令和6年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	779 時間	744 時間	718 時間
最長	1743 時間	1623 時間	1502 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	9 人・25.0%	9 人・25.0%	4 人・11.1%
1,860 時間超の人数・割合	0 人・0%	0 人・0%	0 人・0%

第三内科医師（１７名（Ｂ：５名／連携Ｂ：５名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	989 時間	922 時間	876 時間
最長	1448 時間	1373 時間	1298 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	１０人・58.8%	１０人・58.8%	１０人・58.8%
1,860 時間超の人数・割合	０人・０％	０人・０％	０人・０％

第四内科医師（２６名（Ｂ：１２名／連携Ｂ：３名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	1027 時間	946 時間	887 時間
最長	1714 時間	1598 時間	1482 間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	１５人・57.7%	13 人・50.0%	13 人・50.0%
1,860 時間超の人数・割合	０人・０％	０人・０％	０人・０％

小児科医師（２３名（Ｂ：７名／連携Ｂ：５名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	1047 時間	953 時間	890 時間
最長	1867 時間	1727 時間	1588 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	１１人・47.8%	12 人・52.2%	12 人・52.2%
1,860 時間超の人数・割合	１人・4.3%	０人・０％	０人・０％

脳神経外科医師（１７名（Ｂ：５名／連携Ｂ：３名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	894 時間	863 時間	832 時間
最長	1488 時間	1407 時間	1326 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	８人・47.1%	６人・35.3%	５人・29.4%
1,860 時間超の人数・割合	０人・０％	０人・０％	０人・０％

第一外科医師（１８名（Ｂ：８名／連携Ｂ：１名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	1192 時間	1009 時間	937 時間
最長	2662 時間	1860 時間	1696 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	6 人・33.3%	9 人・50.0%	8 人・44.4%
1,860 時間超の人数・割合	3 人・16.7%	0 人・0%	0 人・0%

第二外科医師（２０名（Ｂ：９名／連携Ｂ：４名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	1301 時間	1197 時間	1128 時間
最長	1689 時間	1577 時間	1465 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	13 人・65.0%	12 人・60.0%	10 人・50.0%
1,860 時間超の人数・割合	0 人・0%	0 人・0%	0 人・0%

整形外科医師（２７名（Ｂ：１名／連携Ｂ：７名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	747 時間	700 時間	682 時間
最長	1420 時間	1269 時間	1213 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	8 人・29.6%	7 人・25.9%	4 人・14.8%
1,860 時間超の人数・割合	0 人・0%	0 人・0%	0 人・0%

泌尿器科医師（１５名（Ｂ：７名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	1067 時間	966 時間	911 時間
最長	1759 時間	1636 時間	1513 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	7 人・46.7%	7 人・46.7%	7 人・46.7%
1,860 時間超の人数・割合	0 人・0%	0 人・0%	0 人・0%

放射線科医師（１９名（連携Ｂ：２名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	675 時間	674 時間	672 時間
最長	1052 時間	1038 時間	1024 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	2 人・10.5%	2 人・10.5%	2 人・10.5%
1,860 時間超の人数・割合	0 人・0%	0 人・0%	0 人・0%

産科・婦人科医師（１３名（Ｂ：９名／連携Ｂ：１名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	1577 時間	1336 時間	1227 時間
最長	2629 時間	1860 時間	1696 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	7 人・53.8%	10 人・76.9%	10 人・76.9%
1,860 時間超の人数・割合	3 人・23.1%	0 人・0%	0 人・0%

麻酔科医師（３０名（Ｂ：７名／連携Ｂ：３名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	991 時間	843 時間	790 時間
最長	1875 時間	1734 時間	1593 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	9 人・30.0%	9 人・30.0%	8 人・26.7%
1,860 時間超の人数・割合	1 人・3.3%	0 人・0%	0 人・0%

救急集中治療部医師（２３名（Ｂ：２名／連携Ｂ：４名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	705 時間	651 時間	620 時間
最長	1783 時間	1656 時間	1530 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	6 人・26.1%	5 人・21.7%	4 人・17.4%
1,860 時間超の人数・割合	0 人・0%	0 人・0%	0 人・0%

血液内科医師（１４名（Ｂ：６名／連携Ｂ：３名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	1244 時間	1134 時間	1048 時間
最長	2045 時間	1860 時間	1696 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	8 人・ 57.1%	9 人・ 64.3%	9 人・ 64.3%
1,860 時間超の人数・割合	1 人・ 7.1%	0 人・ 0%	0 人・ 0%

腎臓内科医師（１５名（Ｂ：２名／連携Ｂ：５名））

年間の時間外・休日労働時間数	令和４年度実績	令和６年度目標	計画期間終了年度の目標
平均	877 時間	813 時間	777 時間
最長	1411 時間	1342 時間	1272 時間
960 時間超～1,860 時間の人数・割合	7 人・ 46.7%	7 人・ 46.7%	7 人・ 46.7%
1,860 時間超の人数・割合	0 人・ 0%	0 人・ 0%	0 人・ 0%

（２）労務管理・健康管理

【労働時間管理方法】

計画策定時点での取組実績	出勤簿による自己申告、打刻システム導入
令和５年度取組目標	令和６年４月稼働の勤怠管理システムを令和５年度末までに構築する
令和６年度取組目標	・ 勤怠管理システムによる労働時間、労働ではない時間（主に自己研鑽）の把握 ・ 勤怠管理システムにより各診療部門の長または勤務計画管理者が管理下にある医師の労働時間を確認（月２回以上） ・ 医師本人が勤怠管理システムに表示される労働時間を月に１度は必ず確認するルールを定め周知する ・ 勤怠管理システムにより、下記内容を含んだ勤務計画を作成する

	時間外・休日労働時間が上限を超えない 法定休日の確保 兼業先の労働時間を含める 宿日直許可の有無による取扱いを踏まえる 勤務間インターバルの確保 代償休息を期限内に付与 兼業先までの移動時間を考慮した休息時間の確保 事務の統括部署が主体となりダブルチェックを実施
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む

【宿日直許可の有無を踏まえた時間管理】

計画策定時点での取組実績	労働基準法施行規則第 23 条の宿日直許可の取得 手続を行う
令和 6 年度 of 取組目標	労働基準法施行規則第 23 条の宿日直許可の取得 手続を行う
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む

【医師の研鑽の労働時間該当性を明確化するための手続等】

計画策定時点での取組実績	事業場における労働時間該当性を明確にするための 手続を定め周知している
令和 6 年度 of 取組目標	事業場における労働時間該当性を明確にするための 手続を周知する
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む

【労使の話し合い、36 協定の締結】

計画策定時点での取組実績	労働者の過半数で組織する労働組合と協議・36 協 定を締結している
令和 5 年度 of 取組目標	令和 5 年度中に 36 協定締結前の段階において対 象医師から意見聴取を行う手順を定める
令和 6 年度 of 取組目標	36 協定締結前の段階において対象医師から意見 聴取を行う
計画期間中の取組目標	同上

【衛生委員会、産業医等の活用、面接指導の実施体制】

計画策定時点での取組実績	・ 衛生委員会を月 1 回開催する ・ 衛生委員会で長時間労働職員の状況について報告している ・ 定期健康診断の受診率を 100%とする
令和 6 年度 of 取組目標	上記事項に取り組む
計画期間中の取組目標	同上

【追加的健康確保措置の実施】

令和 6 年度に向けた準備	令和 5 年度中に必要な面接指導実施医師を確保している
令和 6 年度 of 取組目標	連続勤務時間制限、勤務間インターバル確保及び代償休息確保を可能とする勤務体制とし、対象医師への面接指導を実施する
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む

【多職種からなる役割分担推進のための委員会又は会議の設置】

令和 5 年度 of 取組目標	令和 5 年度中に医療関係職員の業務分担会議を開催し議事録を公開する
令和 6 年度 of 取組目標	医療関係職員の業務分担会議を開催し議事録を公開する
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む

(3) 意識改革・啓発

【管理者マネジメント研修】

前年度 of 取組実績	病院長が管理者のトップマネジメント研修に参加
当年度 of 取組目標	令和 5 年度中に、管理職層向けの人事・労務管理に関する外部講師による研修や、診療科長に対する勤務計画作成研修、医師に対する勤怠管理方法に関する研修等を実施する
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む

(4) 策定プロセス

病院長をトップとする医師等職務環境改善検討委員会を設置、令和 3 年度に 5 回開催し、主に法施行までの進め方及び計画策定のための医師の実態調査を実施・分析を行った。令和 4 年度

については、3回実施し、これとは別に医師の業務見直しのワーキンググループを設置し、検討を行った。

また、対象医師への計画の説明及び意見交換を令和5年度中に実施する。

2. 労働時間短縮に向けた取組

(1) タスク・シフト／シェア

○医師→他の職種

・取組実績

タスク・シフト／シェア先	具体的な業務
看護師	・血管内治療の介助業務(血管撮影における圧迫止血・止血確認・圧迫解除を含む) ・外来でのワクチン接種(小児以外) ・各種検査・術前オリエンテーション・麻酔に関する説明等 ・軟膏処置・病棟での胃管挿入・IVR(画像下治療)手技前の尿道カテーテル留置等の処置 ・救急室(救急外来、初療室)を主とする院内での診療補助(病歴聴取、バイタルサイン測定、その結果より軽症と中等症・重症をトリアージ) ・放射線治療における患者教育 ・専門病棟(NICU/PICU/血液腫瘍など)での搬送に伴う看護業務 ・RI核種投与後、安静待機室への誘導 ・術後ラウンド、術後疼痛管理 ・各種再建手術における関連各科との調整業務
助産師	・妊産婦の保健指導業務 ・低リスク妊娠を対象とした妊婦健診の一部(助産師外来)
薬剤師	・薬剤管理(ミキシング・残薬管理・薬剤の準備・在庫管理等) ・薬の説明・副作用の状況把握・服薬指導 ・薬剤選択、多剤併用薬に対する処方提案 ・入院、外来における患者面談情報(服用中の薬剤情報、副作用や残薬の有無等)に基づく処方支援 ・患者の服薬状況を確認するとともに、必要に応じてフィジカルアセスメントを実施し、副作用の発現状況や服薬状況の確認した上で、処方医等へ情報提供 ・糖尿病患者の自己血糖測定やインスリン等の自己注射等に関する、患者や家族への薬剤を適切に使用するための実技指導 ・事前に取り決めた内容に基づき、レジメンオーダーの速度修正を行う。(医師事後承認)

	・事前に取り決めた内容において保険薬局薬剤師が処方方を修正して調剤する。保険薬局から提出される変更内容を記載したトレーシングレポートは、病院薬剤師がスキャン依頼するとともに内容をメール等で医師に連絡する。 ・事前に取り決めた内容において薬剤師が処方オーダーを修正する。(医師事後承認) ・外来薬物療法センターで抗がん剤を実施される患者に必要な支持療法がオーダーされていない場合、薬剤師が入力を行う。(医師事後承認) ・レジメン内の薬剤が切り替え前の薬剤でオーダーされている場合、薬剤師が切り替え後の薬剤に変更する。(医師事後承認) ・薬剤師による不適切な湿布薬処方の方の代行修正。(医師事後承認) ・R4 年度診療報酬改定に伴う薬剤師による抗がん薬の手技コメント修正(医師事後承認) ・プロトコルに基づいた処方追加、変更、削除業務 ・事前に作成・合意されたプロトコルに基づく、含量規格や剤形等の処方内容の変更 ・術前服薬内容チェック・処方提案 ・処方歴や薬物アレルギーの有無等の医薬品関連情報について、医師の診療情報提供書の作成支援 ・抗菌薬の治療コントロール処方の提案(医師の包括的指示と同意がある場合には医師の最終確認・再確認を必要とせず実施) ・薬剤選択、多剤併用薬に対する処方提案(医師の包括的指示と同意がある場合には医師の最終確認・再確認を必要とせず実施)
臨床検査技師	・細胞診や超音波検査の検査所見の報告 ・(表在における)超音波検査 ・血液細胞(幹細胞等)処理業務 ・手術検体等に対する病理診断における切り出し補助業務 ・デジタル病理画像の取り込み・機器の調整・データ管理等 ・尿素呼気試験の尿素錠の投与 ・検査の際の患者のバイタル確認 ・持続陽圧呼吸法導入の際に行う陽圧の適正域を測定する検査
診療放射線技師	・血管造影・IVR 診療における血管ルート描出 ・イメージガイド下放射線治療(IGRT)での位置照合画像の一次照合 ・(IVR)術前の採血結果の確認、リスクファクター、服薬状況のチェック
臨床工学技士	・(医師の具体的指示を受けて行わなければならない)人工心肺業務における血液、補液及び薬剤の投与量の設定及び変更 ・血液浄化に用いるバスキュラーアクセスの機能維持のためのエコー等による評価 ・後各種機器の回収・保守点検、鎮痛薬投与ポンプデータの解析 ・医療機器の管理(機器の取り寄せ・管理・補充・返却)

	・術中麻酔関連機器の修理・対応 ・心・血管カテーテル検査・業務時に清潔野で術者に器材・材料・薬剤等を手渡す行為 ・補助循環を用いる各種カテーテル挿入時の清潔補助 ・軟性内視鏡検査・治療時の器具準備、術者への器具受渡し ・（医師の具体的指示を受けて行わなければならない）動脈留置カテーテルからの採血 ・心血管カテーテル業務における清潔野で使用する生命維持管理装置の操作及び接続
リハビリテーション技士 （理学療法士） （作業療法士） （言語聴覚士）	・リハビリテーション実施計画書等の作成と患者説明 ・神経学的検査のうち運動、感覚、高次脳機能等に関する検査 ・生活状況（ADL、IADL 等）、療養上課題の聞き取り、把握 ・嚥下訓練・摂食機能療法における食物形態等の選択 ・高次脳機能障害、失語症等の評価に必要な臨床心理・神経心理学検査種目の提案、実施及び検査結果の解釈
医師事務作業補助者	・医療記録（電子カルテの記載）の代行入力 ・病名、コスト、DPC の代行入力 ・診察や検査の予約 ・診断書、入退院サマリー等の書類の作成補助 ・検査手順の説明、同意書の取得

・取組目標

タスク・シフト /シェア先	業務内容	具体的な業務
看護師	特定行為	・人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 ・抗不安薬の臨時の投与 ・抗精神病薬の臨時の投与 ・持続点滴中の降圧剤の投与量の調整
	医師の指示に基づき、事前に取り決めたプロトコールに沿って採血・検査を行う。	・療養上の世話をタイムリーに行うための薬剤を看護師が判断・使用する。（排便コントロール（下剤・浣腸剤・止痢剤・整腸剤など）スキンケア（軟膏・ドレッシング剤・目薬など）疼痛緩和（湿布・麻薬以外の鎮痛剤）など） ・術後 24 時間以内の疼痛管理目的での麻薬性鎮痛薬（フェンタニル等が必要になった場合）の投与
	救急外来において、医師が予め患者の範囲を示して事前の指示や取り決めたプロトコールに基づいて、	・脳卒中の初期対応（検査オーダー等） ・救急室（救急外来、初療室）を主とする院内での診療補助（包括的血液検査オーダーと採血・採尿、包括的放射線検査オーダー）

	・医学的検査のための血液検査や検査オーダーの入力 ・採血・検査の実施	
薬剤師	事前に取り決めたプロトコールに沿って、処方された薬剤の変更 ・投与量変更 ・投与方法変更 ・投与期間変更 ・剤形変更 ・含有規格変更等（一部実施済み）	・処方薬の変更・他院持参薬の処方 ・プロトコールに基づいた投薬（医師の包括的指示と同意がある場合には医師の最終確認・再確認を必要とせず実施する） ・事前に作成・合意されたプロトコール及び薬剤師による専門的知見に基づき、薬剤の種類、投与量等の変更
	手術後の患者を来床して、 ・術後痛を評価し、医師に鎮静薬を提案 ・術前に中止していた薬が術前指示通りに再開しているかの確認	・術後評価・鎮痛薬調製提案・術前中止薬再開確認
	患者を訪床などして情報収集し、医師に処方提案や処方支援を実施 ・効果・副作用の発現状況や服薬状況の確認 ・診療録等から服薬内容の確認 ・多剤併用、検査結果や処方歴、薬物アレルギー情報の確認などを行い、医師に対して情報提供を行う。	・入院、外来における患者面談情報（服用中の薬剤情報、副作用や残薬の有無等）に基づく処方支援（処方の提案や仮オーダー入力） ・医師の診断・検査結果に基づく処方支援
	継続処方の仮入力	・臨時処方や緊急処方の継続処方支援（処方オーダーの仮入力）
臨床検査技師	検査に係る薬剤を準備して、患者に服用してもらう	・脳波検査等の睡眠導入剤の投与 ・呼吸機能検査（気道可逆性検査）時の気管支拡張剤の投与
診療放射線技師	CT・MRI・RI 検査における造影剤投与のための静脈穿刺・装置接続・注入確認・抜針・止血等（診療放射線技師法改正に伴う業務 R3/10/1 施行）	・静脈路を確保し、造影剤注入装置・RI 検査医薬品注入装置の接続・操作 ・当該検査における造影剤 RI 検査医薬品の投与が終了した後に抜針及び止血を行う行為 ・動脈路に造影剤注入装置の接続及び操作する行為

		・下部消化管検査のために肛門に挿入したカテーテルから注入した造影剤及び空気を吸引する行為 ・上部消化管検査のために鼻腔に挿入されたカテーテルから造影剤を注入する行為 ・当該造影剤の注入が終了した後に当該カテーテルを抜去する行為
臨床工学技士	人工呼吸器の設定変更	・人工呼吸器からのウィーニング
	ペースメーカー解析記事カルテ記載	・遠隔モニタリングやペースメーカー外来にて解析データや意見などカルテに記載し、医師のカルテ記載時間を削減

○看護師→他の職種

・取組実績

タスク・シフト/シェア先	業務内容
看護補助者	土日祝日問わずベッドメイキング全般を看護補助者が行うようにしていく。
薬剤師	病棟に薬剤師を配置し、点滴のミキシングや持参薬の管理等を行う。
臨床工学技士	・褥瘡予防のためのエアマットレス等を臨床工学センターにおいて中央管理する。 ・手術における各種器械を術者に渡す直接介助業務 ○医療機器管理業務(ICU) ・透析機器・設定の確認(終日) ・医療機器全般の管理・点検・他部署への貸し出し対応 ・医療機器に関連する消耗物品管理(在庫管理)
作業療法士・理学療法士	入院患者のリハビリ室において訓練を行う際の搬送協力。
言語聴覚士	院内研修を行い、言語聴覚士が行えるようにする。

・取組目標

タスク・シフト/シェア先	業務内容
臨床工学技士	○医療機器管理業務(ICU) ・透析回路、薬剤、ダイアライザー等翌日の透析準備(血液浄化センター)及び片づけ

(2) 医師の業務の見直し

【宿日直の体制や分担の見直し】

計画策定時点での取組実績	・患者・家族への説明は、平日の勤務時間内に実施する。 ・夕方に実施するカンファレンスは、勤務時間内に開始する。 ・診療科の業務内容に応じた主治医チーム制の導入を進める。 ・交替勤務制、複数主治医制の実施。 ・育児・介護休業法第23条第1項、同条第3項又は同法第24条の規定による措置を活用した短時間正規雇用医師の活用。
計画期間中の取組目標	・土日のいずれかを出勤しない日として設定する。

(3) その他の勤務環境改善

【ICTその他の設備投資】

計画策定時点での取組実績	音声入力システムによる電子カルテ入力の省力化 E R部門システムの導入
計画期間中の取組目標	同意書電子署名の導入 青洲リンクなど外部接続機能の充実

○看護師

区分	内容
短時間職員の雇用	短時間正規雇用の看護職員の活用
妊娠・子育て、介護中の職員に対する配慮	・院内保育所(夜間保育含む)の実施 ・夜勤の免除制度 ・半日・時間単位休暇制度 ・所定労働時間の短縮 ・他部署等への配置転換
夜間勤務に対する管理	・夜勤の連続回数が2連続(2回)まで ・早出・遅出等の柔軟な勤務体制の工夫 ・みなし看護補助者を除いた看護補助者比率5割以上 ・院内保育所における夜間保育の実施

(4) 兼業を行う医師の労働時間の管理

計画策定時点での取組実績	・ 兼業先の宿日直許可の有無を照会 ・ 兼業先医療機関において、宿日直許可の取得を促す
計画期間中の取組目標	・ 兼業先へ労働時間短縮及び休息時間確保の協力を必要に応じて依頼する

3. 労務管理体制の構築と労働時間短縮の取組

(1) 医師の状況

令和5年度 of 取組目標	令和5年度中に職員満足度調査並びにB水準連携B水準適用医師からの意見収集を行う
計画期間中の取組目標	上記事項に取り組む

特例水準診療科における時間短縮計画のR6目標達成状況一覧

【特例水準診療科の各項目の達成状況】

対前年度時間外労働時間	達成数	未達成数
平均	10	5
最長	13	2
960時間超～1,860時間の人数	13	2
960時間超～1,860時間の割合	9	6

【特例水準診療科のR6時間外労働時間実績及びR7目標】

診療科名	職員数	平均時間	R7目標	最長時間	R7目標	960時間 超人数	R7目標	960時間 超割合	R7目標
2内	26	751	731	1,409	1,562	4	5	15.4%	13.9%
3内	11	675	899	1,032	1,335	2	10	18.2%	58.8%
循内	19	1,205	917	1,840	1,540	11	13	57.9%	50.0%
小児	16	1,109	921	1,541	1,658	11	12	68.8%	52.2%
脳外	10	784	847	1,264	1,366	2	5	20.0%	29.4%
1外	14	919	973	1,801	1,778	5	8	35.7%	44.4%
2外	16	1,200	1,163	1,547	1,521	15	10	93.8%	50.0%
整形	17	638	691	1,127	1,241	1	6	5.9%	22.2%
泌尿器	10	783	938	950	1,575	0	7	0.0%	46.7%
放射線	16	619	673	1,259	1,031	1	2	6.3%	10.5%
産・婦人	14	957	1,281	1,482	1,778	9	10	64.3%	76.9%
麻酔	23	825	816	1,273	1,664	13	8	56.5%	26.7%
救急	16	876	636	1,436	1,593	5	5	31.3%	21.7%
血内	12	1,114	1,091	1,715	1,778	9	9	75.0%	64.3%
腎臓	9	505	795	803	1,307	0	7	0.0%	46.7%